

牛久：学校周辺に見る自然

第27号 みずべ公園（ひたち野うしく小）ほか

2020年3月1日発行

＜ 冬のみずべ公園 ～⑤いろいろな冬芽 ＞

今回は、冬芽。葉を落とし枯れてしまったような枝にも、緑の葉をつけた枝にも、よく見ると小さな芽がついていましたね。それらを冬芽（ふゆめ）といい、中には茎や葉、花の赤ちゃんがつまっています。そして、春が来るまでじっと冬の寒さや乾燥に耐えているのです。



ツバキの冬芽。細長いのが茎や葉になる葉芽で、そのつけ根から出るまるく大きいのが花になる花芽（左）。花芽を切ると、もう花弁や雄しべ、雌しべもできていることが分かる（右）。 写真は、2012.1.12 中根小。



みずべ公園では、いろいろなタイプの冬芽が見つかりました。数10枚の小さなうろこのようなもので包まれた、アラカシの冬芽にはびっくりしました。とても数えきれないと、困っていましたね。写真の冬芽それぞれが枝を伸ばしたら、どんな姿になるでしょう？

たくさんのうろこのようなもので包まれたアラカシの冬芽。



こちらは、コブシ。大きくて長い毛におおわれた、まるで毛皮のコートのように見えるのが花芽、小さくて短い毛が出ているのが葉芽です。冬芽のわきにスパッと何かで切ったようなあとがついていますが、これは葉がついていたあとです。だから、このあとをたどれば、この枝に葉がどのようについていたのかも分かってしまうのです。

長い毛におおわれた大きなコブシの花芽。小さいのは葉芽。



オオカンザクラの花芽は大きくふくらんで、開花が間近いようでした。枝の先端の芽は細長く形が違いますが、こちらは葉芽です。まだ、かたく閉じていますね。他のさくらではどうでしょう？

ふくらんだオオカンザクラの花芽。先端の細いのは葉芽。



小さな葉に包まれたアカメガシワ(左)とアジサイ(右:ひたち野うしく小)の冬芽。



こんな冬芽もありました。脈が見えています。小さな葉に包まれていて、アカメガシワなど毛におおわれて暖かそうなものが多いですが、アジサイのようにつるつるなものもあります。

これらの写真でも、葉のついていたあとがくっきりと残っていますね。丸いのもあれば、V字形のもあっていろいろです。そのなかに小さな点も見えますが、これは葉との間で水や栄養を運ぶ管の切れたあとです。どんなものがあるか、冬芽の観察をするときに、いっしょに見てみましょう。

最後に、この冬芽を見て下さい。ヤニにおおわれて白っぽく見えます。「うろこ」に包まれるだけでなく、さらにヤニにおおわれて寒さや乾燥から守られているのです。でも、芽が開くときにはじゃまになりそうですが、どうしているのでしょうか？

さらに、この冬芽がついていた枝を下から見上げてみました。モミの木に似ていて、葉の裏に白い線が2本入っています。裏が白いのでウラジロモミ(裏白もみ)です。冬芽のあとが枝に残っているのので、これをたどるとどの部分のいつ伸びた枝なのかが分かります。写真では、たったこれだけの中にも3年分の枝があることが分かります。もし木の根元までたどれるようなら、この木が何歳かも分かってしまいます。冬芽のあとがしっかり残ってないと難しいのですが、そういう木を見つけたら、何年前までたどれたか教えて下さいね。

【理科支援員：宮内】

ウラジロモミの冬芽(上)と枝(下)。